



暮らしと農がリンクする  
都市農業の今を伝えるJA京都市メディア

vol.3

# Link

## 特集

- 農業は化学だ。  
森田さんに聞く微生物と有機物、土のお話し。
- ロス野菜を絵具に。  
京都の大学生が描く未来スケッチ



特集

## 農業は化学だ。 森田さんに聞く微生物と有機物、土のお話し。

限りある資源を有効活用・リサイクルしながら持続可能な社会を実現する循環型社会。上賀茂を中心に活動する森田良彦さんに、野菜の生産・消費サイクルがうまくつながる「循環型農業」についてお話をうかがいました。

# 都市農業 # 環境

## # 有機物と微生物の力を借りる、森田さんの土づくり

森田良彦さんはいち早く有機栽培に取り組むなど、近年のSDGs\*1にも通じる「循環型農業」のパイオニアともいえる存在。「生産から消費まで全ての要素が循環するのが本来の農業」と語る森田さんが、何より重視するのが「土づくり」です。果菜類やその収穫後の枝葉などの収穫残渣を細かく刻み、畑の片隅に積んで微生物の力で分解する土壌改良をしてきました。収穫残渣が知らない間に分解されて、良質な堆肥になっていることが偶然発見されたのがきっかけで始めました。約30年前から土壌改良に取り組み、現在は「SOFIX\*2」の年に1回の土壌分析による土壌認定も受けるなど、経験や勘に頼る従来型の有機農業とは異なる、科学的な根拠に基づいた農業が森田さんのモットーです。

\*1 循環型社会は、持続可能な生産消費形態の確保を目指したSDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」や、多種多様な生き物のつながりや多様性の保護をうたった目標15「陸の豊かさを守る」の親和性が高い。

\*2 立命館大学の久保幹教授らによって開発されたもので、化学性や物理性に加えて、生物性を加えた分析によって土壌の肥沃度を評価する土壌肥沃度指標

## # 土を知れば植物の病気もわかる

子どもの頃から家業の農業を手伝ってきた森田さん。加工した竹材を使用し、雨に濡れないようビニールハウスをつくるなど、アイデアを生かしながら農業に取り組む中で、有機栽培に出合います。「初めの頃は虫が大発生して作物が全滅したこともあり、辞めようと思ったこともあります。でもよく考えれば病気になる人間が医者で診断してもらうように、野菜も虫がついたり病気になる原因があるはず。土を勉強すればその原因がわかると考えました。」



土壌改良効果のあるそば殻の炭を使って土壌のPHを調整。他にも、同様の効果のある抽出後のコーヒー豆を使用するなど、土壌改良に終わりは無い。



森田さんが開発したドライすそ。すそぎ漬けの端材をアップサイクルし、SDGsにも貢献。

## # 京都市の農業をもっと楽しく

研究者顔負けの探求心とアイデアを発揮し、75歳になられた現在も前を向き続ける森田さんに、今後の京都市の農業のあり方についてもうかがってみました。「生産者が楽しく農業を続けられるようにすることが先決。高齢化や害獣被害など問題も多いけど、地域や消費者と協力・交流しながら農業ができる生産者がもっとでこないと。あと、今後は都市型農業にシフトして災害時の緊急避難場所、子どもの教育の場、CO2削減につながる地産地消などに注力していくことも大切やね。都心でたくさんの人から注目されるようになれば、必要以上の農業を使うことも減るだろうし」と語ってくれました。

お話ししてくれたのは…



森田良彦さん

京都市北区上賀茂の生産者一家に生まれ、学生時代から農業に従事。いち早く有機農業に取り組み、循環型農業を実践する。また京野菜マイスターの肩書を持ち、直売店「おいでやす」ではオリジナル開発品も販売するなど、幅広く活動。

JA京都市版GAP認証取得



森田農園



ECサイト



直売所・おいでやす  
京都市北区上賀茂池端町39-1 アクセス:京都市バス4系統深泥池バス停前  
tel:075-712-4889 / fax:075-791-5986  
営業時間:午前10~午後6時 不定休



特集

## ロス野菜を絵具に。 京都の大学生が描く未来スケッチ

食品ロスやSDGsへの意識が高まる中、  
京都の大学生がロス野菜を原料に使った「おやさ絵具」を開発しました。  
各メディアでも注目されるこの絵具が生まれた背景には、農業や子どもたちへの思い、  
そして京都市で代々続く生産者一家の歴史がありました。  
# SDGs # 環境 # つながる

## # 野菜の色で子どもと一体に

立命館大学4回生の山内瑠華さんが代表を務める合同会社ラピスプライベートが開発した「おやさ絵具」は、真空乾燥させてパウダー状にしたロス野菜でできており、アラビアガムというマメ科植物の樹液で溶いて使います。野菜ならではの柔らかい色調や、野菜の粒と質感、香りがあり、口に入れても問題がないほどナチュラルな絵具です。近年、食品ロスに対する問題意識が高まり、その解決に向けてさまざまなアクションが起こっていますが、山内さんは「いかにロス野菜を捨てずに食べるか」ではなく、大好きな子どもたちと楽しめるツールとしておやさ絵具の開発を企画しました。



市販の絵具には出せない優しく繊細な色合いは、芸術関係者の評価も高い。現在は10色前後を販売。

## # 自分を育ててくれた農業

山内さんの実家は京都市右京区太秦で明治時代から農業を営んでおり、現在は祖父の貞夫さん、父の貞宏さんがかぼちゃや三度豆、なすなど多品目の露地栽培野菜を手掛けています。祖父や父の姿から農業の大変さを知ると同時に、畑の隅に大量に捨てられている規格外のロス野菜に漠然とした問題意識をもっていました。大学に入って自分のバックボーンである農業を強みに捉えるようになった山内さんは、親しい友人5人と学生団体「ラピスプライベート」を立ち上げ、おやさ絵具を開発することになります。当初は野菜をミキサーでジュース状にしては失敗するなど、試行錯誤を繰り返しますが、山内さんの活動を知った芸大生のアドバイスから真空乾燥技術に出会い、設備をもつ業者ともパイプをつくってわずか半年で製品化に成功しました。祖父の貞夫さんも「ロス野菜の再利用は生産者としても嬉しいこと。私たちの発想にはない形でやっているし、これからも頑張ってくれたらうれしいね」と、孫娘の活躍に目を細めます。

## # 合同会社を立ち上げ、 さらに広がるイメージ

2021年夏におやさ絵具が完成すると、WebサイトやSNS、イベント活動などを通して積極的にPR。開発時は実家のロス野菜を原料として使用。製品化以降は近隣の契約農家のロス野菜も使用しています。売上は好調で、おやさ絵具を使ったワークショップも開催しています。2022年8月には自身が代表となって合同会社ラピスプライベートを立ち上げ、法人としての活動を開始。今後も絵具以外の製品開発やロス野菜の活用コンサルティング、得意の英語を生かして海外展開も計画するなど、「おやさ絵具」が描くイメージは、どこまでも広がっていきます。

「今の世代はインターネットを通して色々な情報が入ってくる。うまく使いながらより良い将来に向かって邁進してほしい」と貞夫さん(左)。「瑠華がやりたいことをやっているのも、周囲の人やつながりに恵まれたから。ここまで導いてくれた方々には本当に感謝しています」と貞宏さん(右)。



お話ししてくれたのは…



### 山内瑠華さん

立命館大学4年生にして、合同会社ラピスプライベート代表を務める。「おやさ絵具」はWebサイト、instagram、イベント会場などで購入可能。  
▼ラピスプライベート  
<https://www.lapizprivate.com>



2022.  
11.19(土)  
開催

# 京ベジFESTA2022

～秋の大感謝祭～

-京都市の農業、都市農業のあり方を考えるきっかけに-



JA京都市恒例イベント「京ベジFESTA」を開催することになりました。  
今年で8回目の開催となり、下京区梅小路公園で  
地元生産者が作った野菜の販売など都市農業の魅力発信に取り組みます。

## 都市農業を考えるきっかけに

京都市発祥の「賀茂なす」や「九条ねぎ」をはじめとする伝統野菜が全国的な知名度を誇る一方、宅地化が進み、大半の農地は住宅や工場、倉庫に囲まれており、都市農業ならではの弊害も出ています。例えば、農地にゴミが捨てられたり、農業散布のタイミングで近隣住民とのトラブルになったりと社会的な課題を抱える現状があります。そのような中、農家に限らず多くの方が「京都市の農業」や「都市農業のあり方」を考えるきっかけづくりになればと、JA京都市が主催するのが「京ベジFESTA」です。



▼京ベジFESTA 2021の様子



京都市内で作られた新鮮野菜の販売や  
秋季農産物品評会で受賞した野菜を展示。



## 市内の農業を「見る」「味わう」「感じる」イベントに

今回開催する「京ベジFESTA2022～秋の大感謝祭～」は「地元野菜の魅力発信」「都市農業の魅力発信」がコンセプトです。  
イベントは、市内で作られた野菜を販売する「京ベジマルシェ」、秋季農産物品評会で特別賞を受賞した野菜の展示ブース、そして、グルメブースとして人気のキッチンカーが出店する「京ベジぐるめ」など、お子さまから大人の方まで

楽しめるブースが盛りだくさんです。市内の農地から生み出された野菜を見たり、手に取っていただき、そして味わっていただくことにより「京都市の農業」を発信します。  
来場者が都市農業について考えるきっかけが生まれるイベントにしていくので、たくさんのご来場をお待ちしております。



## 京ベジFESTA 2022～秋の大感謝祭～

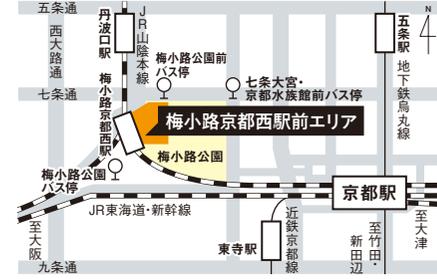
2022.11.19(土) 10:00～16:00

梅小路公園 梅小路京都西駅前エリア  
京都市下京区観喜寺町56-3

電車でお越しの方 (JR・地下鉄・近鉄)「京都」駅中央口より西へ徒歩15分  
または、JR嵯峨野線「梅小路京都西」駅下車すぐ

バスをご利用の方 市バス・京阪京都交通バスをご利用ください

※専用駐車場はございませんのでご来場は電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。



## -TOPICS-

暮らしと農がリンクする  
都市農業の今を伝える JA京都市メディア  
Link Web版 OPENしました。

<https://link.ja-kyotocity.jp>





## 無印良品 京都山科 つながる市



ひとと、街と、  
ものをつなげる「つながる市」

### 無印良品 京都山科

京都府京都市山科区竹鼻ノ街道町91  
ラクト山科ショッピングセンターB1~2F



アクセス

京都市営地下鉄東西線  
「山科駅」下車すぐ。

◀Instagramはじめました

無印良品 京都山科は「おいしくてなんだ。」をテーマに生産者の方々と地域の皆さんをつなぐ店舗を目指す食の大型専門店です。

当店では、地域の農家さんがつくったお野菜や産地直送野菜など生産者の顔が見える食材をそろえています。また、そういった食材を使用した加工食品づくり、清掃活動やつながる市など、地域の皆様と様々な取組みを進めております。「つながる市」は、月に1回開催しているマルシェです。地元的新鲜なお野菜や地域で活動している作家さん、飲食店の方が集い、つくる人と直接お話をしながら買い物をお楽しみいただけます。

10月28日から11月6日の10日間、無印良品 京都山科は開店3周年を記念した「周年市」を開催いたします。期間中、おいしいものや楽しい企画をたくさんご用意していますので、ぜひお立ち寄りください。

# Link

vol.3

2022年10月発行

農業のために 地域のために 暮らしのために  
**JA共済の地域貢献活動**

Link web



HP



Instagram



発行 / JA京都市 総務企画部 地域振興課  
〒615-0046 京都市右京区西院西満崎町24  
TEL: (075) 314-0898

